



市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020

22

DOKI DOKI
たいむとらべらー

橋場ヨリ出デタル追分石

ピューピューと冷たい風が吹きすさぶ12月3日の朝、橋場で行われている村松線の道路拡幅工事現場で「追分石」が出土したとの連絡がありました。

すぐに駆けつけると、すでに土中から追分石は取り上げられ、きれいに土が拭きとられていました。そこで見た石にはつきりと刻まれた「右 浄法寺 左 一戸道」の文字。光に照らされひとときわ輝いて見えました。

石の大きさは最大高68センチ、最大幅35・5センチ、奥行き26・5センチ、重さは男手4人でやっと運べる重さです。埋蔵文化財センターに持ち帰り詳しく調べると、石の右側面にも「北一〇講」の小さい文字が刻まれていること

がわかりました。この文字が何を意味するかはまだわかっておりません。

「追分石」とはみなさん御存知の通り今日という道路標識です。それだけではなく「南無阿彌陀仏」や「庚申」「廿三夜」などが併刻されている追分石もあることから、宗教的な意味合いも強かったと言われています。

市内ではこれまで13基の追分石が見つかっており、ほとんどが江戸時代後期の建立です。一番古いのは金田一上平交差点にある享保20年（1735）の「右ハ下斗米ヘみち 左ハふくおかみち」の碑です。今回も、年号の銘はありませんが江戸時代後期のものだと考えられます。石に刻まれた文字通り、浄法寺と一戸へと続く道の分岐点から出土した追分石は、町に災いが来ないように祈願され、当時の街道の人々の往来を見守っていたのでしょうか。

この石は、江戸時代の旅人の道しるべですが、現代に生きる我々にとっても江戸時代への道しるべと言えます。



取り上げられた追分石。写真は寝そべった状態

こみゅにTeaたいむ

31 杯目

たくさんの愛を受けて

人は1人では生きていけません。誰もが誰かに助けられたり、また、誰かを助けたりとお互いに支えあいながら生きています。私たちが今まで生きてきた陰には数々の愛があるのです。

愛といっても様々な形があります。夫婦や恋人に対する愛、親の子どもに対する愛、兄妹愛、親友愛、また自己愛などもあります。

その様々な愛を私たちはどれだけ受けてきたか一度みんなで考えてみませんか？

自分がどれほどの愛情を受けてきたか、どれほどの愛情をパートナーや家族、友人に注いできたか考えてみる機会が今の時代に必要ではないかと感じ次のフォーラムを開催します。

考えてみることで、人に感謝することや思いやりの気持ちが生まれて胸いっぱいになると思います。そして私たちの心を成長させてくれることでしょう。

みなさんの参加をぜひお待ちしております。

【にのへ男女共同参画フォーラム】

期日 1月16日（土）

場所 シビックセンター

内容 ○第1部 基調講演（13:30～15:10）

講師 児童文学作家 上條さなえ 氏

テーマ 「差別を抱きしめて生きてきた私」

定員 100人（先着）

○第2部 デートDV予防教育支援者セミナー（15:15～16:45）

講師 岩手男女共同参画センター職員

岩手県が開発したデートDV防止のための教育プログラムの普及

定員 30人（先着）

主催 岩手県男女共同参画センター

※参加される人は下記連絡先にお申込みください。定員になり次第締め切りとさせていただきますのでお早めにお申込みください。

市地域づくり推進課（☎23-3111 内線652、FAX23-6185）、もしくは岩手県男女共同参画センター（☎019-606-1761、FAX019-606-1765）

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課（内線652）まで